

最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末8月12日の日足終値時点(NY時間午後5時)での判断です。尚、内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)から一部抜粋(毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ)です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)をご覧ください。(動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。)

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、

スイングトレードであれば、主に4時間足での売買判断、

ゆったりデイトレードであれば、主に1時間足での売買判断、

デイトレードであれば、主に5分足での売買判断となります。

そして、トレード戦略の解説は、YouTubeで配信している「実践トレード解説」をご参考にしてください。

「マーフィーFX」YouTubeチャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々な相場解説を無料動画で視聴出来ます。

■ドル円

<<週足>>

調整反落局面。

終値が+1σラインを下回って以降、調整反落局面入りしている。

そして、最初の押しの目途であったセンターラインまで下落した後に反発している。

今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る

可能性も出てくるが、終値が+2σラインを超えないかぎり、戻りは「売り」となる。

尚、先週の高値近辺が目先の上値レジスタンスと読む。

<<日足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる

一方、終値が同ラインを上回ると+2σラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

<<4時間足>>

調整反騰局面。

終値が-1σラインを上回ったことで、調整反騰局面入りしている。

センターラインは最初の戻りの目途となるが、センターラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、終値が-2σラインを下回るまでは、-1σライン~-2σラインにかけてのゾーンは押し目買いチャンスとも読む。

<<1時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる

一方、終値が同ラインを下回ると-2σラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中。

■ユーロドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

<<日足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

遅行スパンが陽転しているため、底堅い地合いにあり、上昇バイアスがあると読む。

<<4時間足>>

本格的な調整反落局面。

終値がセンターラインを下回っており、 -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面となっている。遅行スパンが陰転しないかぎり、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけは、一旦は押し目買いチャンスと読む。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<1時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

本格的な調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回っており、+2 σ ラインを目指す本格的な調整反騰局面となっている。遅行スパンが陽転しないかぎり、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけは、一旦は戻り売りチャンスと読む。

尚、遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。

つまり、ローソク足に沿って遅行スパンが上昇する格好となっている点に注目したい。

<<日足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると-2 σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

<<4時間足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2 σ ラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

<<1時間足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、等々。

遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが関連しながら動くことを指す。

■ポンドドル

<<週足>>

調整反騰局面。

終値が -1σ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。

センターラインは最初の戻りの目途となる。

今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性も出てくる。

<<日足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

<<4時間足>>

本格的な調整反落局面。

終値がセンターラインを下回っており、 -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面となっている。遅行スパンが陰転しないかぎり、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけは、一旦は押し目買いチャンスと読む。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<1時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

■ユーロ円

<<週足>>

本格的な調整反落局面。

終値がセンターラインを下回って以降、 -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面となっている。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが再点灯中。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中。

<<4時間足>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中だが、最終ターゲットである -2σ ラインには一旦到達済み。

<<1時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

尚、買いシグナルの順行パターンの買いサイン点灯中。

■豪ドル円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。

尚、点灯中の売りシグナルについては、判断は中立と読む。

<<4時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

<<1時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると-2σラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

尚、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

■ポンド円

<<週足>>

本格的な調整反落局面。

終値がセンターラインを下回っており、-2σラインを目指す本格的な調整反落局面

となっている。遅行スパンが陰転しないかぎり、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけては、一旦は押し目買いチャンスと読む。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。

尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

<<4時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

<<1時間足>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

以上です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネル登録のご案内。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々なマーフィー流相場分析、解説が動画で無料視聴出来ます。

◆マーフィー流 FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。

以下より登録できます。

<https://www.span-model.com/line/>

◆「スパンオートトレーダー(SAT)」のご案内。

「スパンオートトレーダー(SAT)」とは、「裁量トレード」と「自動売買(EA)」の良いとこ取りをした、とても便利なトレードツールです。

「スパンオートトレーダー」の詳細、及び、お申込みページはこちらです。

<https://www.xfine.info/satrader/>

◆「スパンオートシグナル」のご案内。

スパンモデルを有効に使いこなす為のきわめて強力なツールです。

スパンオートシグナルのご紹介、および、ご購入用ページはこちらです。

<https://www.xfine.info/sauto/>

以上です。